

〈事業報告〉

記録に残そう大作戦！「大トنبボと琵琶湖文化館」

志 村 恵 子

昭和三十六年（一九六一）に開館した当館は、滋賀県の歴史や美術を総合的に紹介する県内初の公立博物館として、また水族館、植物園、プール、レストランなどを擁す総合レジャー施設として賑わってきた（平成二〇年四月より休館）。その屋根に設置されたシンボルである大トنبボは、夜になると眼を光らせて回転し、灯台の役割も担っていたので、その印象が強く、愛称で「とんぼのお城」と呼ばれるなど多くの人々に親しまれてきた。

開館以来、湖上約四〇メートルの高さから大津の街並みを見守ってきた大トنبボであったが、設置から六〇年以上が経過し、経年による劣化が進み安全に支障をきたす恐れのあることから、本年度の屋根および避雷針改修工事に併せて、取り外すこととなった。撤去した大トنبボは、令和九年度に開館予定の（仮称）新・琵琶湖文化館（以下、新文化館と表記）開設まで、現文化館内で保管し、開設後の取り扱いについては、検討の上決定することになっている。

とは言え、長年にわたって当館のシンボルとして、多くの人々に親しまれてきた大トنبボである。実際には塗装が剥落していたり、羽根を支えるワイヤーが欠けていたり、満身創痍の状態ではあったが、一旦当館での役目を終える大トنبボに対して何かできることはないか、職員皆で相談し、知恵を出し合い、取り組んだのが「記録に残そう大作戦！「大トنبボと琵琶湖文化館」」（以下、大作戦と表記）であった。

一．写真投稿の募集とホームページでの公開

まずは、当館と共にある大トنبボの姿を末永く記録として残すため、皆さんから写真の投稿を募ってはどうか、との案が出た。その後、八月の職員会議の場で、投稿写真はホームページで公開するとともに、大津市内で投稿の写真パネル展を開催すること、応募いただいた方には記念のマグネットを進呈することが決まった。当初、屋根の改修については一〇月以降に工事が始まる予定となっていたため、写真を広く募集するには、時間的な余裕があまり無かった。

八月二五日に報道機関に資料提供、併せてホームページで写真投稿専用サイトを公開して募集を開始、チラシを発送するなど、大作戦は慌ただしくスタートした。

当館は休館から一〇年以上が経過しており、施設の老朽化に対する報道なども度々あったため、いよいよ館のシンボルを取り外すことに対して、報道機関からの注目度も高かった。

・八月二六日 毎日新聞（滋賀）

大トنبボどこへ 琵琶湖文化館老朽化、取り外しへ 思い出写真募集中

・九月三日 産経新聞（滋賀）地域ニュース

大トنبボ六〇年お疲れさま「記録に残そう」思い出の写真募集

・九月二二日 中日新聞(滋賀)

巨大トンボ忘れないで 六〇年街を見つめたシンボル 県立琵琶湖文化館 撤去に合わせ思い出写真を募る

・九月二三日 読売新聞(地域)

名物トンボよ永遠に 琵琶湖文化館六〇年で撤去へ 来月一日まで 県、思い出の写真募集

・九月二七日 京都新聞(地域)

大津・琵琶湖文化館の人気者さらば「大トンボ」 新築・移転控え取り外しへ「記憶に残そう」写真募集

・一〇月五日 NHK大津(おうみ発845)

滋賀県立琵琶湖文化館の「大トンボ」撤去へ 思い出の写真募集

このほか、インターネットのYahoo!ニュースサイトにも掲載され、更に注目度が増した。また「近隣府県の方も思い出深い人たちがいらっしやるだろう」と、各担当記者の配慮により、県域だけでなく近畿、東海地域にも範囲を広げて報道していただいたことで、県外からも多くの反応が寄せられた。

「トンボがいなくなるって本当?」。この一報は、地元地域の皆さんからも関心が寄せられた。商店街連盟の方からは、ポスター掲示・チラシの配架等、周知の協力が得られた。また、近くの大津中央郵便局においても、「そのようなことならば」と特例的なご厚意により、同様の協力をいただくことができた。更に、大津中央・逢坂・平野学区の各自治会においては、組回覧でお知らせいただくことが出来た。特に昭和の活気を知る世代の人たちからは、取り外しを惜しむ声も聞かれたが、概ね「寂しくなるが仕方ない」という反応で、新文化館への期待を込めて「頑張らや」と声を掛けられることもあった。このことは、トンボが最後に残してくれた置き土産のようにも思え、次のステージへ、新文化館へと繋げる使命を託されたようにも思えた。

出来る限りの広報を打ち、投稿の受入れ体制も万全に始まった大作戦であったが、一抹の不安もあった。休館してから年月が経ち、そもそも開館当時のことをよく知らない、琵琶湖文化館が何なのか分からない世代の人たちも増えている。文化館のトンボに思い入れがあるのは、私たち職員だけなのではないだろうか、この大作戦は果たして成功するのか、そんな疑問も頭をよぎった。募集するのは「琵琶湖文化館が写った写真」である。

【募集期間】 令和四年八月二五日(木)～一〇月二一日(火)

【応募資格】 どなたでも可(プロ・アマ問わず)

【応募方法】 琵琶湖文化館ウェブサイトの専用フォーム、Eメール、

郵送・持参のいずれか



記録に残そう大作戦! [大トンボと琵琶湖文化館]
写真投稿募集 チラシ

投稿は、文化館の思い出と共に撮影した懐かしい写真や、最近撮影した写真など、新旧を問わず幅広く募集した。写真にはタイトルと撮影時

期、投稿者名（ニックネーム可）、コメントを添えての応募を求めた。

手探りで始まった大作戦であったが、八月二七日に最初の投稿があり、その後九月に入ると日増しに投稿の数は増えていった。当初の不安は杞憂となり、送られてくる写真とコメントは、それぞれにとっても愛溢れるものであった。投稿のほとんどは専用フォームからメールで受信したが、中には親族に託された写真を、わざわざ届けて下さった方がいた。

「新聞でこのことを知った県外に嫁いだ姉が、自分の写真も使って欲しいと、送って寄越した。昭和の頃に家族で撮影した写真。新聞で見て、ふと滋賀のことが懐かしくなったんやろうかな。珍しいこともあるもんや。」

届けていただいたのは、大津市内に住む投稿者の妹さんである。この方とのやり取りで確信をした。この大作戦は成功する。

投稿作品は、七三頁より一堂に紹介しているが、写真と共に、添えられたタイトルやコメントにも注目していただきたい。それぞれの思いが伝わる凝った作品に仕上がっている。

専用フォームからの投稿には、作品をホームページで公開した段階で、投稿者に御礼の返信をした。皆さんそれぞれに愛溢れる人たちである。複数のやり取りの中から、コメントに収まりきらなかった特に印象に残る皆さんとのやりとりの内容を少し紹介したい。（以下抜粋）

・ 地下プールで泳いだ懐かしい記憶があります。故郷を離れて久しぶりですが、実家に父がおります。私にとっては故郷のランドマークであった大トンボ。文化館は私とおない年（昭和三六年生）であることもずっと親しみを感じておりました。当たり前の存在だったものがなくなるのは非常に寂しいですが、浜大津に建てられるという、新文化館を将来訪れることを今から楽しみにしております。（千葉県）

・ 一九五九年生まれで、小学校の中程まで島ノ関に住んでいました。

以後は京都に引っ越し現在に至りますが、当時の大津は私の中でしっかりと記憶に残っています。送りました写真を見た方が、何かしら感じていただけたら嬉しく思います。（京都府）

・ 打出のコツチ講座終了後に現地に赴きました。幸い天候に恵まれ、館の東側から正面、そして西側から再び正面を経て、最後に東側を巡りました。ほんの一〇分程でしたが、スマホのカメラで二〇〇三〇枚の写真を撮りました。（栗東市）

・ 金沢在住ですが、滋賀県大津市出身で小さい頃から祖父母に連れられ浜大津へ琵琶湖ホール付近にはよく行っておりました。もちろん琵琶湖文化館も外からではありますがよく眺めておりましたので思い出深いです。自分は残念ながら展示期間は滋賀に帰れそうにありませんが、祖父母に連絡しお邪魔させていただきます。（石川県）

・ ホームページに掲載いただき、ありがとうございます。早速母と拝見させていただきました。パネル展も必ず寄せていただきたいと思っています。（大津市）

・ 文化館の建設当時、卒業に伴って下宿を引き払う寸前で（歳がばれます）、竣工が見届けられなかったことを残念に思っていたことを懐かしく思い返しています。（長浜市）

・ 写真撮るのが大好きで、大トンボ取り外されるのが寂しいです。accbookに投稿したら皆さんいいね👍下さいました。（大津市）

・ 幼い頃に琵琶湖文化館のプールで遊んだり、休みの日にしょっちゅう家族で文化館に行き、中学生の頃は併設されていた植物園の温室がクラスメイトのデートの場所になっていたりと、子どもが出来てからは子どもを連れて行き、思い出の絶えない場所です。昔は食堂があつて、生まれて初めてくらいの鶏肉のグラタンを食べて美味しかった事を覚えています。そして当時はソフトクリームを売っておられ、文化館と言えばソフトクリームという感じで、行く度ではな

いですが親に食べさせてもらった時はすごく嬉しかったです。何より、親子連れで気軽に行ける水族館でありながら、数々の歴史的な仏像や歴史的な出土品、土器、仏画、絵画など所蔵品を当たり前のようにいっぱい見られた事が今考えると貴重な原体験だったんだろうなと思います。写真を見て一緒に思い出した弟は、今は日本古代史の学者になり大学で教鞭をとっています。(大津市)

・生まれて二八年間ずっと大津市在住で、今も通勤で毎日のように文化館と大トンボを見えています。そんな幼少期から見てきた大津のシンボルが無くなってしまふのは非常に寂しい気持ちでいっぱいですが、大津市民として今回の企画に参加出来たことを誇りに思います。(大津市)

・私が最後に入館させていただいたのは、二五年くらい前になるでしょうか。それより前にも、家族で訪れたことがあり、大変思い出深い場所です。恐らく古いアルバムを辿れば大トンボが写った写真がまだありそうですが、直ぐに探し出せた写真を投稿させていただきました。(野洲市)

・幼い頃に大津に引っ越して来て以来、前を通るたびにいつも見ていました。湖畔のシンボルとして、長年大津の街を見守ってきた大トンボに、私も「お疲れ様」と伝えたい気持ちになりました。(大津市)

他にも、投稿作品が当館のホームページで紹介されたことを喜ぶTwitterや、投稿の呼びかけを自らのSNSで発信してくださる方など、多くの反響に、担当として喜びを隠せなかった。応募締切り間近に地域のニュースで放送されたこともあり、駆け込みの投稿が相次ぎ、結果、全作品をホームページで公開できたのは、募集を締め切ってから一週間後のことであった。

なお、応募いただいた方には、投稿の記念として、写真をマグネットに加工して進呈することも企画の一部とした。皆さんの思い出が、投稿

したことをきっかけに、更に良き思い出として、形と記憶に残るものとなれば幸いである。

【投稿内訳】

	メール	郵送	持込み	合 計
人数	75人	5人	4人	84人
点数	161点	14点	20点	195点

内) HPへの掲載：163点

【投稿者／地域別】

大津市	51人	京都府	4人
守山市	5人	奈良県	2人
草津市	3人	愛知県	2人
野洲市	3人	石川県	1人
高島市	2人	千葉県	1人
栗東市	1人	北海道	1人
甲賀市	1人		
湖南市	1人	不明	1人
彦根市	1人		
多賀町	1人		
東近江市	1人		
近江八幡市	1人		
長浜市	1人		
県内／計	72人	県外／計	12人

二．写真パネル展―記録がつむぐ思い出写真―

次なる大作戦は、写真パネル展の開催である。会場を決めるにあたっては、当館からそう遠くないところで交通のアクセスがよく、かつ気軽に鑑賞いただける会場を選んだ。足を運んでくださる方が、当時の文化館の思い出と同じルートで会場に来易いこと、地元の方が、当時の文化館の中であつても気軽に立ち寄れること、文化館の大トンボを知らずにいた人たちが、「近いのでちょっと見に行ってみよう」と思える距離であること、などを考慮し、大津市内二会場での開催となった。特に浜大津会場は、新文化館の建設予定地が目の前であり、開設への機運醸成を兼ね

たいこの思いもあった。

【会期】令和四年十一月十五日（火）～十一月三〇日（水）

【会場】大津市内二会場

・京阪びわこ浜大津駅ターミナルデッキ二階
・滋賀県庁二階 本館・新館間渡り廊下

【主催】滋賀県文化スポーツ部文化財保護課・滋賀県立琵琶湖文化館

【特別協力】滋賀県立琵琶湖博物館・大津市歴史博物館



〔大トンボと琵琶湖文化館〕写真パネル展—記録がつむぐ思い出写真—チラシ

投稿作品をホームページに全て掲載し終えたのが一〇月一四日、わずか一ヶ月後にはパネル展を開催していなければならぬ。チラシを作成しホームページに開催を告知するサイトを公開、二五日には報道関係への資料提供を行った。その間にも、二会場で展示する写真パネルの配置デザインを考えねばならず、時間に追われながら編集作業に没頭した。本展では、投稿作品と併せて、当館が保管する開館当時の貴重な記録写

真や、滋賀県立琵琶湖博物館・大津市歴史博物館のデジタルアーカイブに残る古写真などを併せて展示し、皆さんの思い出に寄り添える内容としたかった。

ところが、ここで暗礁に乗り上げる。二会場で展示する写真は共通であったが、それぞれ会場のキャパシティが異なる。浜大津会場は、屋根はあるものの屋外なので、印刷紙にプリントしたものでは湿気等の影響を受けて三日ともたないだろう。そこで今回は、一枚のボードに複数の写真を並べ、全体をUVラミネートで加工する看板に仕上げることにした。ターミナルデッキは広いが、基本円形となっているため、安全にボードを設置できるのは中央部分のみ。一八二センチメートル幅のボードが通路を挟んで両サイドに四枚、計八枚のパネル看板に、投稿作品と古写真を収める計算である。一方、県庁渡り廊下は、そこまでの制限はないものの、ピックアップレールの設置個所が限られ、随所にある柱を避けつつ展示をする必要があった。このため、浜大津会場と全く同じデータでパネルを作っては、会場にうまく収まらないのである。

ボードの加工が必要な浜大津会場のパネルデータを二週間で編集し、完全原稿の状態で、専門業者にパネル看板作成の業務を委託。次に県庁会場のデータを作成することとなるが、少しでも皆さんの力作・投稿写真を大きく見せたいとの思いから、浜大津会場の一・三倍に再編集をした。（並べて見比べないと分からない程度の拡大倍率であるが、担当者として「パネル展が楽しみです」と言って下さった投稿者の気持ちに添えたい気持ちの方が強かった。）もう少し時間に余裕があれば、一投稿作品をA3サイズ程度の大きさに、一点ずつ個々に展示をしたかったが、さすがに百点を超える作品を、切って貼って加工する時間も労力も無かった。これには少し悔いが残っている。

実は、もう一つ悩ましき問題が生じた。それは、当館が保管する膨大な記録写真の中から、どの写真を選んで展示するべきか、である。どれ

もこれも皆さんに見ていただきたい写真ばかりである。加えて、琵琶湖博物館・大津市歴史博物館から特別に提供いただいた古写真がある。時代を反映する古写真の魅力も捨てがたい。結果として、本展において、文化館開館当時の魅力を伝えられたかどうか、担当の力不足と反省せざるを得ない。

とにもかくにも、作業時間の制約と展示スペースの確保に頭を悩ませる中、さらなる問題が生じた。間違っただけではないが、これは嬉しいハプニングである。実は、今まさに、トンボに焦点を当てたパネル展を開催するというこのタイミングで、これまで存在しないと思われていた「トンボの設計図面」が、館内から偶然発見されたのである。これには全職員、驚きを隠しきれない。もしかして何かの啓示ではないか、トンボが皆さんに見てほしいと言っているのではないか。そんな大発見を、急遽、パネル展に盛り込むことになった。

そもそも大トンボについて、これまで把握していたのは、建設当時の「建築工事設計図」に描かれたイラストのような図と、「創建報告書」に記された内容のみであった。

勝虫飾

鉄骨製銅板 厚一・二米張 頭部、胴部、尾部、作出し、足及翅真中棒鋼製とし、総体金箔仕上げ、頭部 眼球部分 アクリ青色板嵌込、水銀灯入、外部三ヶ所より照明電球付きとす。翅長 三米にて、全体に調和する如く取付、一分間に二回転位の速度にて回転する様、変速モーター付 一式

しかし、新たに発見された設計図面には、トンボの平面図と断面図、胴組の詳細図が記されていた。また、これまで法量は「羽を広げた長さが約三メートル」としか分からなかったが、頭から尻尾の先までが二・二五メートル、重量が一五〇キログラムあることが新たに判明し、間もなく取り外しとなる工事においても、これは大変貴重な情報であった。

果たして、当初想定していなかったこの設計図面を、パネル展で紹介するには、図面の色彩が薄く、ある程度の大きさで展示しないと、細かな数字を読むことができない。そこでスペース確保のため、他の写真の掲載枚数を減らす判断をした。トンボが展示して欲しいと言っている。結果、最大限の工夫と努力を忍ばせつつ、この設計図を無事、皆さんにお披露目することができた。

この新発見は、職員に感動をもたらしただけでなく、報道各社の興味をもくすぐることとなる。図面発見のニュースは、パネル展開催のお知らせと共に、つづがなく報道されることになった。まさに神がかりといえるようなタイミング、当館としては非常に有り難かった。

・一月九日 産経新聞（地域ニュース）

「大トンボ」設計図見つけた！ 琵琶湖文化館 一五日から県庁・浜大津駅

・一月一二日 朝日新聞（滋賀）

名物大トンボ 六〇年前の設計図 琵琶湖文化館 シンボル撤去前に発見

・一月一五日 NHK大津放送局（おうみ発630）

琵琶湖文化館のシンボル 大トンボの撤去前に思い出写真展

・一月二三日 読売新聞（地域）

みんなのトンボ写真一九五五 琵琶湖文化館募集 大津市内二か所で展示

・一月二五日 京都新聞（地域）

大トンボ設計図 撤去寸前の発見 「まさかこのタイミングで」

・一月二七日 中日新聞（滋賀総合）

琵琶湖文化館 巨大トンボ設計図あった 発見の副館長ら興奮／思い出詰まったトンボと文化館の姿 県内外で募った写真一九五五 点 三〇日まで県庁などでパネル展



会場) 京阪びわこ浜大津駅ターミナルデッキ



会場) 滋賀県庁2階

一月一五日、パネル展は無事開幕した。安堵したのも束の間、今度は会場の様子が気になって仕方がなかった。というのも、「気軽に見ていただけるように」と、スタッフも居ない、受付もない会場での開催だったので、どれくらいの人が見て下さっているのか、パネル展を観た感想など、その反応を知る術が無かった。気持ちとしては毎日会場に立ち、来て下さった皆さんと、文化館の思い出について語り合いたい、感想を聞かせていただきたいと思っていた。しかし現文化館は、休館しているとは言え、少ない人員体制で業務を行っているため、毎日会場に詰めることは出来なかった。出張の合間や昼休みに、こっそり覗きに行く。すると、写真パネルを熱心にご覧いただいている人がいる。聞けば、文化館の設計に携われた建築士さんのご遺族の方である。また違う日には「自分が投稿した。文化館が休館する直前の展覧会も見に行った。」という方とのまさかの出会いもあった。複数の写真パネルをスマートフォンで撮影する女性。声を掛けると「素敵な構図なので自分もこういう風に写

真を撮ってみたい」とのこと。嬉しすぎた。他にも、文化館建設当時の記録写真を熱心に見入る学生さんや、古写真を見ながら「懐かしい風景やわあ」と会話が弾ませる年配のご夫婦など、さまざまな反応をしつかりと得ることができた。

三、「記録に残そう大作戦！」その後、「続」

実は、「記録に残そう大作戦！」には、その後がある。写真の投稿を一〇月一日に締め切ったそのわずか一カ月後、皆既月食と天王星食が同時に起こるという非常に珍しい天体ショーが見られることがわかった。既に投稿写真の中には、月夜に浮ぶトンボのシルエットを写真に収めたものが数点あったが、実に四四二年振りとなるこの好機を逃すわけにはいかない。きっと文化館のトンボとのコラボレーションを撮影に来られる方もいるだろう。その写真を是非コレクションに残したい。ということ、急遽、写真募集を再開することにした。名付けて「続・記録に残そう大作戦！」。

一月八日、午後六時過ぎから始まった月食は、七時一六分から八時四二分までの間皆既月食となり、薄ら明るい夜空に赤銅色の光が大トンボを照らした。翌日の京都新聞(一面)には、文化館のトンボと赤銅色に染まる月が掲載された。一般の方からは、こちらの期待通りに、写真の投稿があり、世紀の瞬間を収めた写真は、ホームページで紹介するとともに、歩道沿いにある館の掲示板に貼り出し、道行く皆さんにもご覧いただいた。その後、大トンボに仮設の足場が組まれる一月中頃まで、名残を惜しむ人々からの投稿が続いた。

一方、県内初の公立博物館として、長らく滋賀の文化財に携わってきた文化館のシンボルが撤去されるという報に対して、きちんと誌面に残しておくべきと、動いて下さった方々があった。びわ湖芸術文化財団

地域創造部が発行する季刊誌「湖国と文化」^(三)と、公益財団法人文化財保護協会が発行する「おうみ文化財通信」^(四)である。両誌とも、この度の投稿写真の中から数点をカラーで掲載し、トンボとの別れに華を添えていただいた。

おわりに

この度の「記録に残そう大作戦！」では、企画段階から時間に追われつつも、実に内容の濃い充実した時間を過ごした。予想を超える投稿数、皆さんから文化館の思い出や溢れるトンボ愛を教えてください、その熱い思いが、この怒涛の日々を乗り越える糧となった。長年、当館と共にあった大トンボに対して、「お疲れさま」ありがとう」とコメントを下さった方が多数おられたことにも感動している。寄せられた投稿写真は、撮影時期も思い出の内容も実に様々で、これらの写真は、私たち職員にとっても何物にも代えがたい宝物となった。

トンボ取り外し・撤去の報にあっても、悲愴感漂うことなく、素敵な花道を飾ることが出来たのも、ひとえに皆さんの協力があつたからこそである。なんとも幸せな大トンボだ。トンボのお城にカメラを向けていただいた皆さんに心から感謝の意を表したい。

写真パネル展ではサブタイトルに「〜記録がつむぐ思い出写真〜」という言葉をつけ加えた。すでにあった思い出の写真が、あるいは、今回新たにトンボに注目して撮った一枚の写真が、投稿をきっかけにホームページやパネル展で紹介されることで、ふたたび、皆さんの記憶に残る新たな思い出となりますように、そんな願いを込めた。

大作戦の記録がつむぐのは思い出だけではない。本事業に係わり協力いただいたすべての人が、今後も文化館の大トンボの行方を気にして下さることだろう。これは新文化館開設への強力なサポーターを得たよう

なものだ。係わってしまった皆さん、どうかお忘れなきよう、トンボの行く末を見守っていただきたい。

「記録に残そう大作戦！」大成功である。

ところで、その後談としてもう一つ付け加えさせていたいただきたいことがある。この期間、皆さんからいただく投稿の熱い思いを受け止めて(影響されて)、実は職員もカメラを持って走り回っていた。湖岸に建つ浮き城、屋根の上の大トンボ、撮影対象として改めて文化館の良さを皆さんに教えていただいた。「いい写真は皆さんが撮ってください。それなら自分は、皆が思いもよらない文化館の写真を記録に残そう」と。

かくして、慣れない一眼レフカメラと三脚を持って、撮影ポイントを探しに休日を費やすこととなった。太陽の向きや天気具合によって思うような写真が撮れず、同じ場所に四回足を運んだこともある。当たり前の風景を、当たり前に記録に残すことの難しさが身に沁みた。改めて決定的瞬間の大トンボと琵琶湖文化館の姿を撮影してください、投稿者の皆さんには感謝の言葉しか出てこない。屋根の上に大トンボが鎮座する今の文化館を撮影できるのは、今、今しかない。結果、撮り溜めた写真は、一〇〇〇枚を優に超えた。

職員が撮影したこれらの写真は、ホームページのトップページで、さり気なく紹介することにした。名付けて「実は見えているらしい 琵琶湖文化館の大トンボ」。遠景↓近景↓トンボのアップ…と、三枚の写真のスライドショーで見せることで、少し遊び心も加えた。「注意して見えていなかったと思うが、実はこんなところからも文化館が見えている」「文化館のトンボを、実はあなたも見えている」というメッセージを込めた。通常、ホームページのその箇所は、収蔵品を見せるホームページの「顔」に当たる部分なので、さすがにいつまでも「本業」をアピールする場を占領することは出来ない。ということで、掲載は、遅れていた撤去工事

が始まるまでの間として、一二月末から約一カ月、全七作をシリーズで紹介した。

後にこれらの写真は、「文化館写真集」のコーナーで、職員投稿として「実は見えていた」という過去形で記録に残した。中には他の職員が出張する際、「ちょっと山の上から文化館撮ってきてくれる？」と、無謀なお願いをしたこともある。職員の愛のこもった記録写真、これらも立派な「記録に残そう大作戦！」だと、認めていただければ幸いである。

(しむら けいこ・公益財団法人滋賀県文化財保護協会副主幹

琵琶湖文化館担当GL)

註

- (一) 『滋賀県立琵琶湖文化館創建報告書』(一九六一、滋賀県立琵琶湖文化館) 二四頁
- (二) 季刊誌『湖国と文化 第一八二号』(二〇二三年一月一日、びわ湖芸術文化財団 地域創造部発行) カラーグラビア
- (三) 季刊リーフレット『おうみ文化財通信 vol.5』(二〇二三年一月一日、公益財団法人滋賀県文化財保護協会発行)

* 写真パネル展の特別協力に際し、滋賀県立琵琶湖博物館の橋本道範氏、ならびに大津市歴史博物館の木津勝氏に、多大なるご協力をいただいた。また、浜大津会場(京阪びわこ浜大津駅ターミナルデッキ)の使用申請において、大津市建設部路政課の木村雅章氏および職員の皆さんに指導いただいたことに、謝意を表します。

* 本事業においては、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課兼務職員(文化財活用推進・新文化館開設準備室／中井裕昭館長・北村圭弘副参事・雲出泰弘副参事・和澄浩介主任学芸員・田澤梓学芸員ならびに美術工芸・民俗係／井上優副館長・

古川史隆副主幹) および公益財団法人滋賀県文化財保護協会嘱託職員(中澤智子)の協力のもと実施した。

- ・報道への資料提供等／雲出泰弘
- ・「トンボ設計図面」発見者／井上優
- ・県庁会場設営／中井裕昭・北村圭弘・雲出泰弘・古川史隆・和澄浩介・田澤梓
- ・浜大津会場設営／株式会社ニシオカ
- ・パネル展校正／会場記録／中澤智子



【タイトル】 威風堂々
【投稿者名】 A B B A. 【撮影】 2021/12/01
文化館とは同い年です。文化館の堂々とした構えは誇りにさえ思いました。



【タイトル】 夕焼けの時
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2022/06/26
夕焼けまで待ちました。

記録に残そう大作戦！
【大トンボと琵琶湖文化館】

【投稿写真集】

募集期間 2022/8/25 ~ 10/11
投稿者数 84人

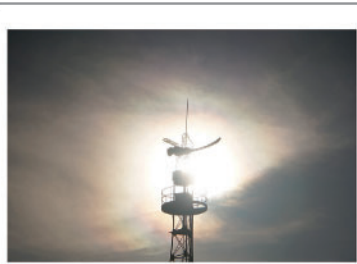
ここでは、HPでの公開および写真パネル展で展示した投稿作品を再編集し紹介する。



【タイトル】 屋根の上の蜻蛉
【投稿者名】 松村シロ 【撮影】 2019/10/29
撮りたくなりますよね。



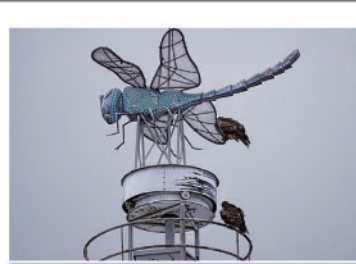
【タイトル】 見晴らし最高
【投稿者名】 石黒 一男 【撮影】 昭和36年頃
周りには何もない時期で文化館だけ。



【タイトル】 夕焼けトンボ
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2022/06/26
子供の頃から父とよく釣りに出かけた思い出の地です。



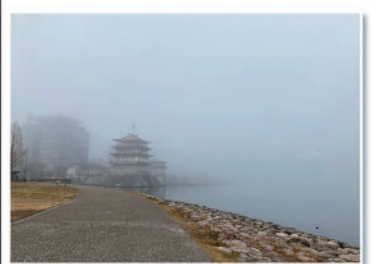
【タイトル】 冬の花火
【投稿者名】 近隣住民A 【撮影】 2020/12/03
琵琶湖文化館の近くを歩いているとき、花火が上がりました。



【タイトル】 トンビが憩う大トンボ
【投稿者名】 A B B A. 【撮影】 2020/元旦
帰省時に撮影しました。私の中で、大トンボは故郷のランドマークでした。



【タイトル】 暑い日
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2022/06/26
今年は夏前から暑かった。



【タイトル】 霧の日
【投稿者名】 近隣住民A 【撮影】 2021/01/15
濃霧の中でぼんやり見えてきた琵琶湖文化館は、どこか神秘的でした。



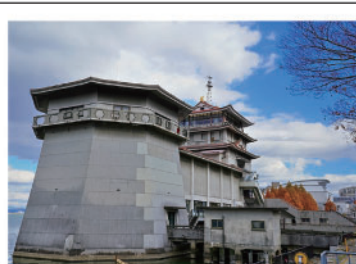
【タイトル】 晩秋から初冬へ
【投稿者名】 A B B A. 【撮影】 2021/12/01
帰省時の散歩中に、並木の紅葉に映える文化館がとても美しかったのでシャッターを押しました。



【タイトル】 俺も自由に飛びたい！
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2022/06/26
トンビに喧嘩をうられて。



【タイトル】 夕焼け
【投稿者名】 近隣住民A 【撮影】 2021/06/04
美しい夕焼けに、琵琶湖文化館のシルエットがきれいでした。



【タイトル】 島ノ間側から
【投稿者名】 A B B A. 【撮影】 2021/12/01
帰省中に散歩撮影。島ノ間側からのアングルが新鮮だったので思わずシャッターを押しました。



【タイトル】 焼け小焼けの
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2022/06/26
気持のいい夕焼け。



【タイトル】 白いトンボと夏の空
【投稿者名】 梅村 郁 【撮影】 2018/08
いつもお城の上でじっとみんなを見守っているトンボもびわ湖の上空を自由に飛びまわる夢を見ているかも知れない。



【タイトル】 最後の雄姿「あきつ君」
【投稿者名】 びわ湖 次郎 【撮影】 2022/09
「ありがとう」の気持ちを込めて撮影しました。



【タイトル】 雪の朝
【投稿者名】 近隣住民A 【撮影】 2022/01/14
歩くのもままならない雪の朝、見えてきた琵琶湖文化館を思わず撮りました。



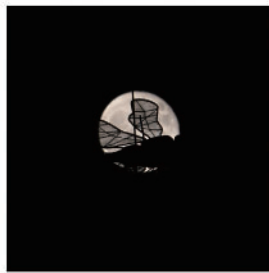
【タイトル】 月光を翔ぶ
【投稿者名】 みずてまり 【撮影】 2022/09/11
中秋の名月を背に飛翔するトンボの姿が大変印象的でした。



【タイトル】 ありがとう「文化館」
【投稿者名】 びわ湖 次郎 【撮影】 2022/09
見慣れた湖岸にある文化館と仲間たち。



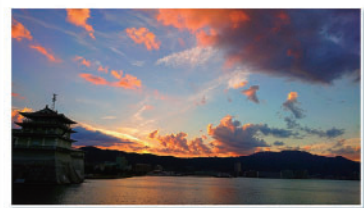
【タイトル】 ミシガンから
【投稿者名】 近隣住民A 【撮影】 2022/05/03
年に1回はミシガンに乗船しています。今年のゴールデンウィークに乗船したときには琵琶湖文化館を撮っていました。



【タイトル】 シルエット
【投稿者名】 みずてまり 【撮影】 2022/09/11
綺麗な満月に浮かぶ特徴的なトンボの影を写してみました。



【タイトル】 湖上の雄姿
【投稿者名】 びわ湖 次郎 【撮影】 2022/09
びわ湖に映える湖城。



【タイトル】 薄暮
【投稿者名】 なおくん 【撮影】 2018/07/23
琵琶湖との夕景が素晴らしいです。



【タイトル】 夜の浮城
【投稿者名】 吉田 壽子 【撮影】 昭和36年頃
父が残した1枚の写真には、思い出がたくさん詰まっています。今も大切に部屋に飾ってますよ。



【タイトル】 夕陽に映える滋賀県琵琶湖文化館
【投稿者名】 マチコさん 【撮影】 2022/09
古城思わせる琵琶湖文化館。



【タイトル】 もういなくなっちゃうの？
【投稿者名】 加賀田 茂敏 【撮影】 2022/09/07
私とほぼ同い年の大トンボ。もう見られなくなってしまふのかと撮ろうとするとトンボが飛んできて一言。



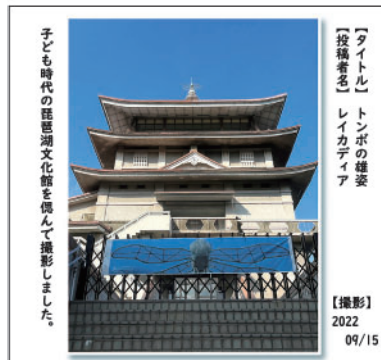
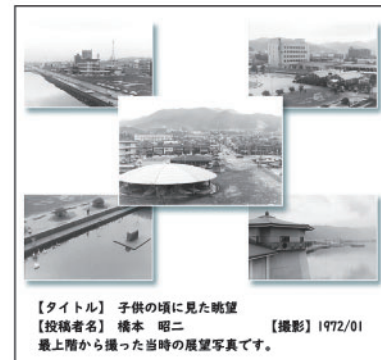
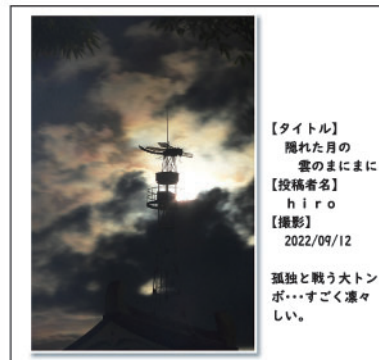
【タイトル】 緑のヤンマ
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2015/01/17
星の動きをカメラの機能を使い1枚撮りて撮影しました。ヤンマの背後に北極星を配置した構図としています。



【タイトル】 トンボとミシガン
【投稿者名】 kyoto_ken 【撮影】 2022/09/11
綺麗なトンボが撮れました(^-^)/



【タイトル】 初日の出
【投稿者名】 田宮 秀晴
【撮影】 2019 01/01 7:41
新しい年の門出に飛び立つ。





【タイトル】協演（夜から暁の刻）
【投稿者名】眞本 尚二 【撮影】 2022/09/26
星の 55 分間の軌跡を夜が明け始めた時間まで撮影しました。左から車の灯り、逆さ文化館、朽ちた桟橋、大津の夜景、琵琶湖大橋 その上には雲が流れています。



【タイトル】いざ登城
【投稿者名】 たがゆうちゃん 【撮影】 2022/09/20
退職後大津に行く機会が減った。久しぶりにトノボ城に会いに行った。ここから見る景色は好きだ。



【タイトル】大空に羽ばたくシンボル
【投稿者名】 レイカディア 【撮影】 2022/09/15
青空に息まれたトンボが気持ち良く羽ばたいています。



【タイトル】協演（暁の刻）
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2022/09/26
星の 16 分間の軌跡を夜が明け始めた時間帯に撮影しました。左から車の灯り、逆さ文化館、朽ちた桟橋、大津の夜景、琵琶湖大橋、薄明 すべての文化館を誇りに思っているかのようでした。



【タイトル】
夜に浮かぶふたつの
トンボ城
【投稿者名】
にゃんこ (=^・^=)
【撮影】 2021/11
風のない夜、綺麗な
リフレクションが見
られました。できれば、
水草の掃除をし
てもう一度撮りたい
です(´・`)



ともに羽ばたく日まで！

【タイトル】
「投稿者名」
がりよう
秋葉の季節に

【撮影】
9月下旬



【タイトル】名神からの下り道
【投稿者名】 yas u 【撮影】 2022/09
名神大津 IC から下って来た道のつきあたり、その正面
になぜお城？屋根の上になぜトンボ？！(笑) ツツコミ
どころが減るのが寂しい…大津市民の日常風景。



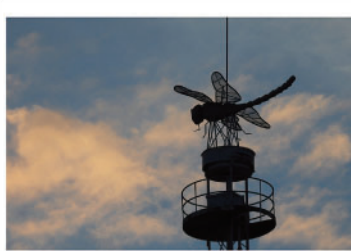
【タイトル】57年前の文化館
【投稿者名】 竹本茂治 【撮影】 1965/3月頃
大津市に住んでいた頃、結婚前にデートで行った事
がありました。



【タイトル】よく見ると…
【投稿者名】 さこっち 【撮影】 2022/09/21
長年、琵琶湖文化館を守ってきた婚婦。数々の台風に耐えてきた
のに…外されるのは忍びないです。撮影した時は気づかなか
ったのですが、よく見たら左の目が割れていました。外されたらど
こへ行くのか？東庁が琵琶湖博物館で展示して欲しいです。



【タイトル】
ドラゴンフライ's
フライト
【投稿者名】 ジーマ
【撮影】 2022/09
飛行機雲と一緒に収
めました。小学生の
ころ館内を利用した
ことが何度もあり、
薄暗い中に水槽があ
るのが少し怖かった
のを覚えています。



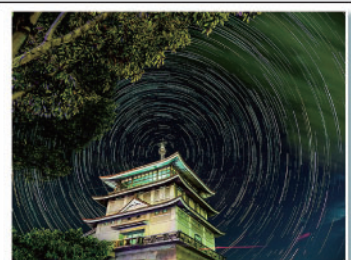
【タイトル】夕空に映える
【投稿者名】 yas u 【撮影】 2022/09
大トンボ、開館当初は金色だったと、文化館のブログ
で知った。金色でなくともこんなに…。



【タイトル】通勤の一コマ
【投稿者名】 ふじやん 【撮影】 2021/10
毎朝、通勤電車から一瞬見える大トンボ。



【タイトル】記憶と記録
【投稿者名】 別所 隆弘
そういうのも、写真の大事な役割の一つだと思うんです。



【タイトル】時巡る
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2022/09/26
琵琶湖文化館も時とともに変わっていく様子を星の軌跡
を入れることで表現しました。前の歩道橋から！校撮
りで仕上げています。



【タイトル】威風堂々 トノボ城
【投稿者名】 たがゆうちゃん 【撮影】 2014/01/07
大津で会議があるといつも琵琶湖とトノボ城に会い
に行っていた。



【タイトル】 トンボとバイク
【投稿者名】 TAK 【撮影】 2022/09/26
子供の頃この辺りでよく遊んでいました。今まで大津の街を見守ってくれてありがとうございます。



【タイトル】 オリオンも見てるよ
【投稿者名】 眞本 尚二
【撮影】 2022/10/01
右上に輝くオリオンの星たちも名残惜しそうに見ていました。



【タイトル】 北極星ととんぼ
【投稿者名】 トミタ ショウゾウ 【撮影】 2018/06/04
とんぼが夜空の星を眺めていました



【タイトル】 夕景に染まる
【投稿者名】 りんゆかちゃん 【撮影】 2009/09/07
夕陽が当たる博物館、威厳がありました。



【タイトル】 薄明を迎える
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2022/10/01
夜明け前、草津の街灯りが雲に映り込み、その上側は朝焼けが始まっています。



【タイトル】 秋晴れの日の秋津
【投稿者名】 yamyohko 【撮影】 2022/10/01
いなくなってしまうと聞いて、撮影に行きました。



【タイトル】 威風堂々
【投稿者名】 りんゆかちゃん 【撮影】 2022/9/25
西側にそびえたつ風格、威厳ありました。



【タイトル】 どこへ行くの？
【投稿者名】 眞本 尚二
【撮影】 2022/10/01
六十年以上もの間、大津の街並みを守ってくれてありがとうございます！どこに行くの？



【タイトル】 月夜を舞うトンボ
【投稿者名】 M氏
【撮影】 2022/09/10
大トンボ最後の中秋の名月。



【タイトル】 シンボル
【投稿者名】 りんゆかちゃん
巨大なトンボ、文化館の顔でした。

【撮影】 2022/09/25



【タイトル】 雄姿
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2022/10/02
朝焼けの中、トンボの堂々とした姿を表現しました。



【タイトル】 また行こうね！琵琶湖畔のデートスポット
【投稿者名】 ぴかちゃん
新婚当初の母です。当時の大津市のデートスポットと言え、琵琶湖文化館。大勢の人が館内に入っていく様子が見られます。子供達の熱帯植物園と受売店にも寄り、楽しい一日を過ごしたとのこと。

【撮影】 昭和43年夏



東側から見た顔でした。

【タイトル】 横顔
【投稿者名】 りんゆかちゃん

【撮影】 2022/09/25



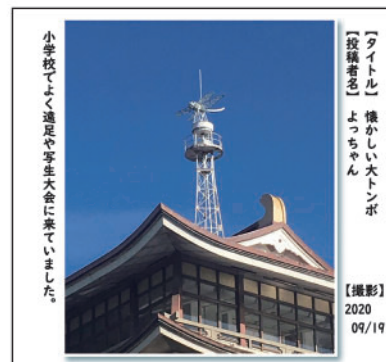
【タイトル】 秋晴れ
【投稿者名】 山本 浩之 【撮影】 2022/10/1



子供と記念に撮りました。

【タイトル】 親子ととんぼ
【投稿者名】 おばま

【撮影】 2022/10/02





【タイトル】 ミシガンから見た琵琶湖文化館
【投稿者名】 宮島 未奈 【撮影】 2022/04
見慣れた湖岸の風景も、琵琶湖側から見ると新鮮です。



【タイトル】 湖を飛ぶ
【投稿者名】 ある 【撮影】 2022/09
撤去の報を受けてカメラを持って最後のお別れに訪れた際に撮影しました。



何十年も昔から数えきれないほど見ているはずなのに、ツートンだったと撮った日に初めて知りました。いつからこの配色だったのか、ずっとこうだったのか、なぜこのような屋根になったのか、どうか教えてください(笑)

【タイトル】 ツートンカラーの屋根だったと
【投稿者名】 梅村 郁 今になって気付いた

【撮影】 2022/09



別れを惜しむようにトンポに雲がとまっていました。

【タイトル】 とんぽ とんび
【投稿者名】 梅村 郁

【撮影】 2022/09



ちょっと変わったアングルで撮ってみました。

【タイトル】 とんぽのお城
【投稿者名】 梅村 郁

【撮影】 2022/09

【投稿者名】 とくっさん 【撮影】 昭和 36 年 3 月

【タイトル】 遠景に工事中の文化館
当時の家並みと左端に文化館、右端に県庁・滋賀会館



【タイトル】 最上階から県庁方面を望む



正面に県庁、山麓に名神高速道路の工事現場が...

【タイトル】 館内三景 【撮影】 昭和 36 年夏
【投稿者名】 とくっさん

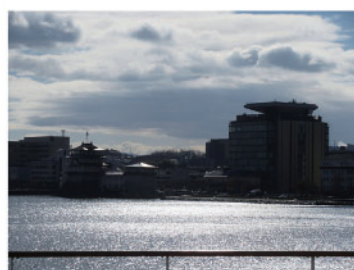


①階段モニュメント
どの階からも見える美しいデザインだった！



②水族館部分
湿気と文化財 大丈夫かなと思っていた学生時代でした。

③さて、何処でしょう？
何を撮って撮ったのか、今となっては？



【タイトル】 ビアンカから見た琵琶湖文化館
【投稿者名】 宮島 未奈 【撮影】 2021/12
きらきら光る琵琶湖の向こうに大トンボが見えます。



【タイトル】 琵琶湖ホテルから見た琵琶湖文化館
【投稿者名】 宮島 未奈 【撮影】 2020/12
琵琶湖ホテルの屋上から見た風景にも大トンボがありました。



【タイトル】 湖岸さんぽ日和
【投稿者名】 宮島 未奈 【撮影】 2018/09
気持ちよく晴れた日、大トンボも元気そうです。



【タイトル】 模 (くさび)
【投稿者名】 眞本 尚二 【撮影】 2022/10/04
浜大津港から文化館方面を見ていると見事なクザビ型の朝焼けが現れました。



【タイトル】 トンビと大トンボ
【投稿者名】 Miho
【撮影】 2022/09

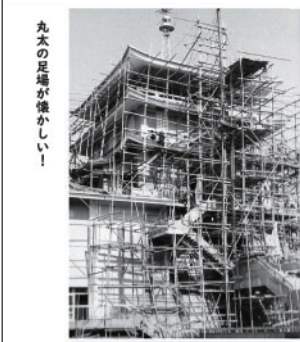
写真をとろうとしたら、ずっと、トンボがとまっているのがおもしろいと思いました。



【タイトル】 パノラマ展望
【投稿者名】 三方よし湖 【撮影】 2022/10/04
大トンボの頭部にカラスがいました。ここからは大津市街がパノラマ展望でき、さぞかし心地良い場所だと思います。



【タイトル】 トンボ城
【投稿者名】 三方よし湖 【撮影】 2022/10/04
ここから見る琵琶湖文化館がお気に入りの風景です。お城の雰囲気があり県民に長らく親しまれていました。



丸太の足場が懐かしい！

【タイトル】 工事仲からとまっていたトンボ
【投稿者名】 とくっさん

【撮影】 昭和 36 年 3 月



【タイトル】冬の文化館と京阪電車
【投稿者名】谷本 武弘 【撮影】2018/01
文化館が雪化粧していた日でした。京阪電車の色が変わりつつある頃で、いろいろと待っていたらラッピング電車が通過していきました。



【タイトル】写真の募集を知り私も探しました②
【投稿者名】中井さん 【撮影】2014/11/18
平成19年11月には入館者が650万人となった記事を見ました。大勢の方がおとずれていたことにおどろき、又、感動致しました。新文化館楽しみです。



【タイトル】公開終了数週間前の玄関からトンボを見上げた
【投稿者名】ごきえい 【撮影】2008/03/16
たくさんの鯉が泳ぐ水族館や室内プールで少し寒かったなど思い出多い文化館でした。



【タイトル】トンボと飛行機の軌跡
【投稿者名】谷本 武弘
冬の澄み切った空、日没後の様子を眺めていたら飛行機の軌跡がトンボの近くに見えました。
【撮影】2019/02



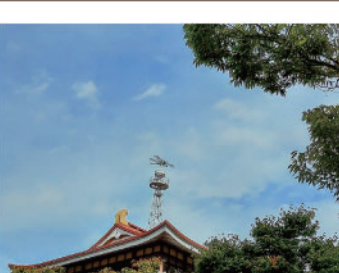
【タイトル】おじいちゃんの大トンボ！
【投稿者名】たんたん 【撮影】2011/01/24
嘘か本当か？父から聞いたのですが「おじいちゃんが作った大トンボやで！」と自慢げに言っていました。小さいころには目が光っていたりくるくる回っていましたのをよく覚えてます。今は真っ白？になったいいちゃんの大トンボ！カラフルだったころの大トンボはいつまでも心に残ってます。



【タイトル】大津のシンボル
【投稿者名】ごきえい 【撮影】2008/03/16
大津市の車の玄関口 名神大津 I.C. から湖岸に向かう湖上にあるお城、琵琶湖文化館は大津市のシンボルでした。



【タイトル】琵琶湖文化館と息子二人
【投稿者名】水谷 千春 【撮影】1990年
いつも身近なところにある琵琶湖文化館。今も額に入れてリビングに飾ってある写真です。



【タイトル】青空に映えるトンボ！！
【投稿者名】マチコさん 【撮影】2022/10/04
永遠に有難う！！



【タイトル】公開最終日
【投稿者名】ごきえい 【撮影】2008/03/30 午後5時過ぎ
公開最終日の外観です。老朽化で仕方ないですが、思い出多い文化館の閉館はさびしい限りでした。



【タイトル】外国の偉い人が琵琶湖文化館に来た時の写真
※ミシガン州知事ご夫妻です！！
【投稿者名】水谷 千春 【撮影】1977年
英語が話せないのに案内役になってしまった父。



【タイトル】放水に煙る
【投稿者名】tamura 【撮影】2015/01/11
出初め式。



【タイトル】昭和四十年
【投稿者名】三方よし湖
当時、家族で琵琶湖文化館へ行くのが楽しみでした。そして、琵琶湖ヘルスセンターで泳ぐのが恒例でした。
【撮影】1965年



【タイトル】トンボと鱈尾
【投稿者名】菊峰涼
撤去と聞いて十月に入りましたが、鱈尾との共演です。
【撮影】2022 10/02



【タイトル】日常風景
【投稿者名】林 健一
散歩中に写しました。
【撮影】2022 10/01



【タイトル】写真の募集を知り私も探しました①
【投稿者名】中井さん 【撮影】2013/04/01
時々見学に行きました。前池ではガチョウやアヒルが飼育され、水族館でオオサンショウウオを見たり、展望台で美しい滋賀の風景を楽しみました。



【タイトル】 木に着地
【投稿者名】 k-r 【撮影】 2022/10 月初旬
見る角度を変えると、自由に飛び回っているようです。



【タイトル】 逆さ文化館？
【投稿者名】 しょうこ
【撮影】 2022/10
久しぶりに大津に帰って来て、あまりにも文化館が綺麗だったので、携帯で撮って、父にも送ります。



【タイトル】 令和大決戦 トンボ vs 街灯
【投稿者名】 ykms 【撮影】 2022/10/08
【コメント】 光っていたとは知らなかったです。



【タイトル】 旅行の思い出
【投稿者名】 加藤 恒雄
【撮影】 2022/10/09
新聞で大トンボが取り外されると知り、その前に見に行きたいと立ち寄りました。



【タイトル】 とんぼForever
【投稿者名】 yukkey 【撮影】 2022/09/10
最後に一花咲かせました。ずっと大津を見守ってくれてありがとう。



【タイトル】 もう会えなくなるの？
【投稿者名】 いっこ
【撮影】 2022/09
あきつくんが取り外されると知って、電車に乗らずに湖岸を歩いて浜大津まで行きました。鳥があきつくん話しかけているようです。



【タイトル】 若かりし頃の思い出
【投稿者名】 小島さん
【撮影】 1967年
(昭和42年)

父33歳 母30歳 今は亡き、両親の若かりし日の写真です。



【タイトル】 中秋の名月と
【投稿者名】 yukkey 【撮影】 2022/09/10
大トンボにとって最後の中秋の名月。晴れてくれてよかったと思います。



【タイトル】 ゆめのお城を象徴する大トンボ
【投稿者名】 いっこ
【撮影】 2012/07
大津の京阪電車を使う会の情報誌「大津けいはんタイムス」の取材で琵琶湖文化館のことを調べた時に撮りました。あきつんだけは、タイムス20年版のフロント「大津動物園」にも登場しました。



【タイトル】 おだやかなびわ湖と、大トンボ
【投稿者名】 ミスター奥びわ湖 【撮影】 2019/04
穏やかな波を打つ琵琶湖と、琵琶湖文化館のロケーションが美しく、思わず撮った一枚です。



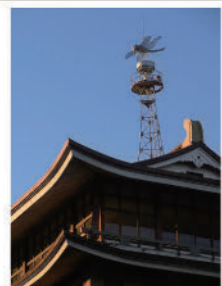
【タイトル】 ある雪の降る朝
【投稿者名】 yukkey
雪が降り頻る中、朝焼けが幻想的でした。



【タイトル】 とんぼと自転車と曇り空
【投稿者名】 ゴウ
【撮影】 2022/10/09
新聞で外すとの記事があり、記念と思い。



【タイトル】 琵琶湖ヨガ撮影と、大トンボ
【投稿者名】 ミスター奥びわ湖 【撮影】 2019/04
琵琶湖文化館をバックに、琵琶湖ヨガの撮影をしたときの一枚です。

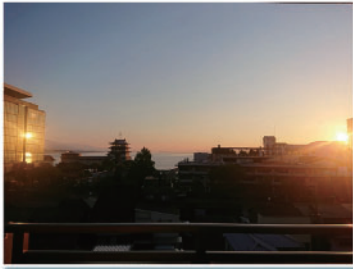


【タイトル】 琵琶湖文化館の守り神
【投稿者名】 k-r 【撮影】 2022/10 月初旬
この景色が見られなくなるのは悲しいです。



【タイトル】 あきつ&からす
【投稿者名】 坂居 紳一郎
【撮影】 2022/10/07
あきつ君が大好きで、仕事帰り通り返りして今日の撮影と明日への希望をお願いして帰ります。が、このショットは初めて見ました。自分にとっても宝物になりました。お疲れ様でした。有難うございました。





【タイトル】 朝日に輝く
【投稿者名】 丸山 稔郎
ベランダから見える風景。
【撮影】 2022/07/02



【タイトル】 いつもの通り道
【投稿者名】 丸山 稔郎

【撮影】 2022/09



【タイトル】 最後の記念に
【投稿者名】 こいけさん
知らせを聞いて写真を撮りに来た友達。その必死な姿があまりにも印象的で、思わず彼女を撮りました(笑)。
【撮影】 2022/10/11



【タイトル】 昭和 36 年 琵琶湖文化館開館初日
【投稿者名】 村田 正雄
当時の江若鉄道に乗って文化館に行きました。
【撮影】 1961/03/20



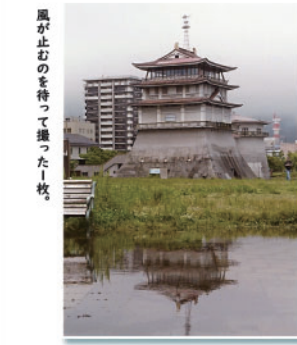
【タイトル】 いつもの帰り道
【投稿者名】 丸山 稔郎
【撮影】 2022/09



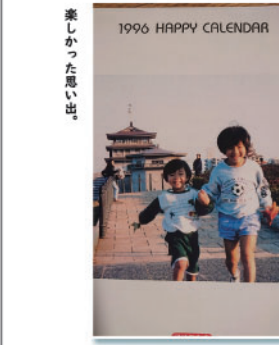
【タイトル】 トンボとトンビ
【投稿者名】 Shigeru
【撮影】 2022/08/27
トンボが取り外される事を知り慌てて撮影に行きました、何枚か撮影しましたら偶然にトンボとトンビが来上りました。



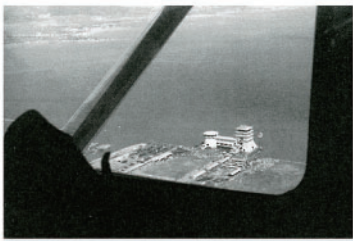
【タイトル】 開館の日上空から遊覧 ①
【投稿者名】 村田 正雄
水上飛行機に乗って、上空からも文化館を眺めました。
【撮影】 1961/03/20



風が止むのを待って撮った一枚。
【タイトル】 とある日常の不思議な風景
【投稿者名】 丸山 稔郎
【撮影】 2020 年



【タイトル】 仲良しふたり
【投稿者名】 さくら
【撮影】 1995 年秋



【タイトル】 開館の日上空から遊覧 ②
【投稿者名】 村田 正雄
【撮影】 1961/03/20



【タイトル】 薫風の候
【投稿者名】 丸山 稔郎



【タイトル】 大トンボよ永遠に
【投稿者名】 琵琶湖の猫ちゃん
三十年あまり前、大トンボに見守られながら頑張った博物館学芸員の美智。あなたのことは、永遠に忘れません！有り難うー！！
【撮影】 2022/09



【タイトル】 「大戦争！」で絵馬発見！
【投稿者名】 事務局 / あきつ
【撮影】 (2022/10/01)
長浜市観音堂にある草野神社の拝殿に、大トンボが金色に輝く文化館の絵馬が奉納されていました！
【実は…初代館長の地元です♪】



【タイトル】 ありがとう！
【投稿者名】 事務局 / あきつ
【撮影】 (2022/10/11)
“歴代職員一同より愛をこめて♡” 写真をご投稿いただいた皆さま、ご協力有り難うございました～！！

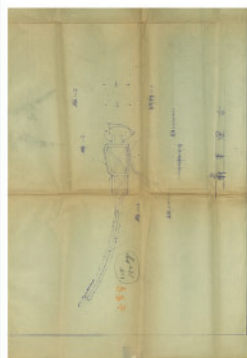


【タイトル】 霧の湖城
【投稿者名】 まさ
【撮影】 2018/12/21
辺り一面霧深く、とても幻想的な風景でした。

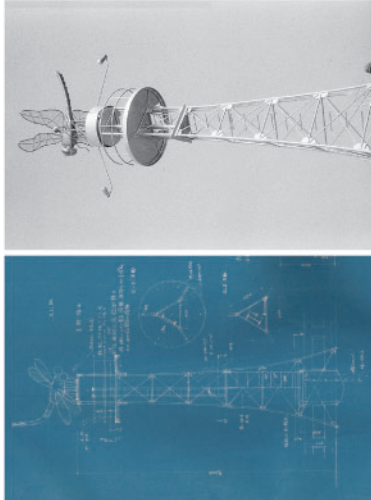
〔大トンプと琵琶湖文化館〕

(西 藏 調 查 文 化 館)

1961 - 1967



照根を上げた大きさは約3mということに分かっていましたが、体重（飛行時）が2.25mであることや重さが150kgもあることを、このタイミングで設計図が見つかったのは、全くもって驚きです。奇跡としか言いようがありません！



【新代議員が語る】

2008年1月1日 金曜日 第1000号 22
 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠商事株式会社

2月



滋賀県立琵琶湖文化館開館

[illegible]

— 84 —

シリーズ③



シリーズ④



シリーズ⑤



記録に残そう大作戦! [大トンボと琵琶湖文化館]
職員投稿による【文化館写真集】

写真パネル展の開催に合わせて、ホームページのトップページでは、三枚の画像をスライドショーで見せる「実は見えているらしい」シリーズを公開。屋根の改修工事が始まるまでの間、随時更新した。その後、「文化館写真集」サイトに「実は見えていたッ!」に改めて更新した。

シリーズ①



シリーズ②



シリーズ⑦



シリーズ⑥



令和5年(2023)1月26日深夜【大トンボ地上に舞い降りる】

